



学校概要(伝統と地域農業を牽引)

加美農業高校は宮城県北西部に位置する色麻町にあります。町の西側は奥羽山脈の山岳地帯、東側は大崎平野にかかる四季折々の美しい自然がある場所に位置しており、絶えず未来を目指した教育を展開することによって、農業経営者育成高等学校「パイロットスクール」としてこれまでに数多くの地域リーダーを輩出してきました。

現在本校には農業科、農業機械科、生活技術科の3学科182名が在籍しています。「農業高校のすばらしさ」を知ってもらうために、地域の方々を巻き込んだ様々な志教育の実践を報告します。

120周年

本校は、昨年創立120周年を迎えた伝統校です。

明治33年、地域産業を振興するために、加美郡蚕業学校として開校しました。昭和23年には学制改革により宮城県加美農業高校と改称し、120年の歴史を刻み、農業自営者をはじめ、各界に活躍する優れた人材を輩出してきました。

本州1位

本校の敷地面積は813,452㎡です。東京ドームに換算すると17個分になります。本州で1番の敷地面積を誇っています。全国の農業高校で北海道を除くと1番広い敷地面積の高校です。

県内初

農業科作物専攻班は、県内初のJGAP認証に取り組んでいます。色麻町が維持してきた水管理や水資源を活かしてきたことが認められ認証された世界農業遺産「大崎耕土」の可能性を広げ、消費へ付加価値を付けた加美農米プロジェクトに挑戦しています。県内の農業高校では初めての認証取得となりました。

データから見る地域協働(※12月現在)

志の3観点

- ①よりよい生き方を「もとめる」
時代を生き抜く知恵と技術力を育成する。
- ②人と「かかわる」
様々な人とのかかわりを通して、豊かな人間性を育み、社会力を育成する。
- ③社会での役割を「はたす」
ボランティア活動等で、集団や社会における自己の役割・課題を知り貢献できる人材を育成する。

50回

5月7日農業機械科の獣害対策連携学習から地域協働スタート。12月まで50回の地域交流を実施しました。

小中学生農業体験やロータリークラブ花壇植栽、ワサビ植栽や地域園児小瀬菜大根播種など地域と共に歩んでいます。

794人

本校生徒が今年度の交流事業に参加した延べ人数です。

本校の全校生徒数が182名ですので、単純計算すると、生徒1人あたり、4.3回の交流事業に参加している計算になります。

2104人

昨年・今年とコロナウイルス感染拡大防止の観点で活動が自粛傾向でした。

今年は感染状況や社会情勢を考慮し事業を展開しました。

こちらの数字は、今年度の地域協働で参加いただいた地域の方の人数となっています。

活動の記録の楽しみ方

科・部門の研究テーマ

活動写真

- ①注目ポイント
 - ②アピール3つ
 - ③写真について
- 背景の色違い
青:もとめる
橙:かかわる
緑:はたす

加美農生と地域が紡ぐ未来の米作り(農業科 作物専攻班)



- ①安心安全な農業実践を行い、消費者・企業へ信頼される加美農米を届ける取り組みに挑戦している。
- ②GAP認証の取り組みを実践。世界農業遺産認定地域から、保全活動とブランド化を目指した取り組みと販路拡大を目指した取り組みと海外輸出へ挑戦・米の新たな活用方法の検討。
- ③今年度の取り組みが評価され、新たに海外(香港)への加美農米の輸出が実現しました。

地域を守れ！ 33人の勇者の歩み(農業機械科)



- ①色麻町と連携した獣害対策
- ②校内でイノシシ捕獲に向けた箱罠設置。色麻町内の防除柵設置完了に向けた共同作業。色麻町内の獣害に対するアンケート実施と獣害の注意喚起ポスターでの広報活動。
- ③イノシシ箱罠の製作・設置。イノシシを捕獲して農産物を守ります！

酪農教育ファーム活動(農業科 畜産専攻班)



- ①生徒が「かかわる」ことで深まる社会貢献。
- ②直に牛の命をしっかりと感じてもらうように体験児童とのかかわり。畜産専攻生が、企画し実施する主体的な取り組み。様々な体験と「食と命」の寸劇を交えた授業の実施。
- ③仙台市内小学校への出前授業風景です。寸劇で伝えた「食と命の授業」は企画や台本づくりに苦労しました。小学生の真剣な眼差しと笑顔を引き出すことができました。

守れ！伝統野菜 未来に繋ぐ地域の宝(生活技術科)



- ①伝統野菜である小瀬菜大根の保存と普及を目指しています。
- ②小瀬菜大根栽培農家との連携。地元小学校や幼稚園、加美町振興公社や加美町との連携。宮城県農業大学校アグリビジネス学部との連携。
- ③地元小瀬菜大根栽培農家に、伝統野菜を守り続けている考え方や在り方についてインタビューしました。

地元小学生も満足。 新鮮！加美農の野菜(農業科 露地野菜専攻班)



- ①色麻学園給食食材の白菜の栽培管理を加美農生がお手伝い。
- ②加美農生が地元小学生に白菜の苗定植を伝授。小学生の食育をサポート。小学生が収穫し、喜びをサポート。収穫した白菜は色麻学園小学校の給食食材に。
- ③色麻学園色麻小学校3年生の生徒たちと白菜の収穫。農作物を大切に育て収穫まで共に経験。

空飛ぶ教室。 受講生は5km先(農業科 草花専攻班)



- ①コロナや新しいデジタル社会を意識して草花遠隔実習を実現。
- ②勉強に距離は関係ない！相手の顔がはっきり見える映像美と手元の細かい作業を見ることができ。対面よりもオンラインで実施することで、移動に関わる二酸化炭素排出削減に貢献しました。
- ③同じ町内の中学校とのリモートでの遠隔実習を、NICTから技術提供いただき本校生徒がテレビクルーとなって準備をしました。実施中学生徒アンケート結果満足度100%を獲得！しました。

地域名産品の栽培の 一翼を担う(農業科 生物工学専攻班)



- ①バイオテクノロジー技術で、葉菜ワサビの苗を大量生産して提供
- ②みんなによく知られた「葉菜ワサビ」の生産に貢献。授業で学習したことが実社会の生産現場に生かされている。病気に弱い品種を、バイオの力で元気に。
- ③私たちが栽培圃場に出向き、自分たちの作った苗を定植しました。1年半かけてできあがったワサビの調整場で生産者との交流も行ってきました。今年は、約2000本の苗を提供できました。

届け私たちの真心。 地域に幸せを(家庭クラブ)



- ①地域の社会福祉事業と連携
- ②保育の授業で、日々学んだ保育実践として園児達と交流を行い、手縫いでの雑巾製作と一緒にを行いました。「無事かえる」のマスコットを作成し色麻町宅場の方にお届けに行きました。「地域の大切な人を励まそう」を目標に地域の小学生と一緒にシトラスリボンを制作しお渡ししました。
- ③地域の交通安全を願い、マスコットを作成しメッセージと一緒にたくさんの方々に配布しました。

果樹園は地域の ワンダーランド！！(農業科 果樹専攻班)



- ①23品種のリンゴを栽培！
- ②品質にこだわった栽培管理。23品種400本のリンゴの木を生徒が徹底管理。一年を通じて多くの栽培管理工程を経て、愛情いっぱいの果実を収穫。地域のワンダーランド化を計画し、来校者を生徒がサポート。地域の園児・児童に大人気のリンゴ収穫体験。本校生徒も楽しい思い出になるよう全力サポート。
- ③おのだひがし園の園児達のリンゴ狩り収穫体験の様子。

効果

数多くの事業をとおり、生徒・保護者いずれも地域との関わり「もとめる」「かかわる」「はたす」を実感しています。

88.5%

学校評価アンケート(R2)の「農業高校として、専門的知識・技能の習得に向けて、地域と連携した教育の充実を図っている。」の質問項目の生徒数値。ちなみに保護者は95.8%でした。

95.2%

学校評価アンケート(R2)の「地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる。」の質問事項の生徒数値。ちなみに保護者は94.6%でした。

今後の展望

もとめられる学校

かかわれる学校

はたせる学校



本校HPQRコード
または

加美農

